

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 1 月 8 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3871000190		
法人名	有限会社 ユニット・ワン		
事業所名	グループホーム ユニットぐんちゅう		
所在地	伊予市米湊字西窪1131-3 (電話) 089-946-7677		
管理者	武智 美知子		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 20 年 11 月 25 日	評価確定日	平成 21 年 1 月 13 日

【情報提供票より】 (平成 20 年 9 月 15 日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 7 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 15 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 6.2 人	

### (2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	6,000 円
敷金	有( )円 ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( )円 ○ 無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,400 円	

### (3) 利用者の概要 (平成 20 年 9 月 15 日事業所記入)

利用者人数	18 名	男性 2 名	女性 16 名
要介護 1	8 名	要介護 2	2 名
要介護 3	5 名	要介護 4	1 名
要介護 5	2 名	要支援 2	名
年齢	平均 84 歳	最低 66 歳	最高 103 歳

### (4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	あり	指定認知症対応型通所介護
届出	あり	短期利用型共同生活介護
加算	あり	医療連携体制加算

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

郊外の幹線道路沿いにある平屋のゆったりとしたホームである。近くの高校の協力で園芸療法に取り組んでおり、庭ではクリスマスイルミネーションの準備中で、完成すると近隣の名所となっている。同法人の3つのホーム合同で行う運動会や文化祭、催しなどは、ボランティアや幼稚園児など多くの参加者で毎年にごわっている。職員は利用者と生活を楽しむために、外出や季節ごとの行事の企画に余念がなく、運営者や管理者はそれをバックアップする体制を整えている。職員のモチベーションは高く、利用者へのケアの質向上に有効に作用している。職員は「コミュニケーションが自慢です」と言うように、笑顔が溢れるホームである。

## 【質向上への取組状況】

### ▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)

運営推進会議については、開催を重ねるごとに話し合いが深くなっている。また、災害対策については、地域の避難場所としての活用を依頼されるなど双方向で取り組む姿勢が見られ、地域と一体となった取り組みがある。

### ▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)

職員が自己評価に取り組み、管理者とホーム長、リーダーでまとめている。その後さらに職員全員で話し合いを持ち、真摯に取り組んでいる。自己評価を自らのケアの見直しとサービス向上への視点として前向きに捉えている。

### ▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)

運営推進会議では、ボランティアの受け入れや地域・季節行事が多いため、これらの打ち合わせに時間を費やしている。この話し合いの時間が地域との繋がりを深めるために有用となっている。認知症についての理解を求める議題や、利用者のサービスについて、災害対策など、議題は多岐に亘っている。

### ▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)

多くの家族は頻繁に訪問があり、その機会に管理者や職員が利用者の状態を報告している。また、家族からの意見を収集するために、意見箱の設置やアンケートの実施などの取り組みも行っているが、直接会話することが重要と考えており、職員全員で家族とコミュニケーションが図れるよう取り組んでいる。

### ▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)

同法人の他ホームと協働で、運動会や文化祭、地方祭などのイベントを定期的に開催し、地域の方との交流を行っている。また、地域行事は勿論のこと、クリスマスイルミネーションなどの季節行事で近隣住民とのふれあいも行われている。今後はさらに近所の方が気軽に遊びに来てくれるホームづくりに力を入れていきたいと考えている。

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

#### I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

#### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

#### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

#### V. サービスの成果に関する項目

**ホップ 職員みんなで自己評価!**  
**ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!**  
**ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!**

ーサービス向上への3ステップー  
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。

- 「取組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

ユニット ぐんちゅう

(ユニット名)

A 棟

記入者(管理者)

氏名

武智 美知子

評価完了日

平成 20 年 9 月 25 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 「悔いの残らないお世話をさせていただきます」を理念に掲げ、具体的には、その人らしさを尊重し、明るい笑顔でゆったりと生活していただけるよう努めている。センター方式を取り入れ、利用者一人一人のニーズを把握し、地域の一員として生活していただけるよう支援している。散歩・買い物・催し物他に出かけ、地域の人々との交流を大切にしている。 ----- (外部評価) ホームの理念は、運営者の信念でもある。「悔いが残らないケア」には、多方面の視点や協力が必要であることを痛切に感じており、地域の力は欠かせないものと考えている。そのために地域との関わりを積極的にもつよう努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 毎朝の申し送り時、理念と今月の目標を スタッフ全員で声を出し、復唱している。今月の目標は、理念に基づいて毎月交代でスタッフが考え、グループホーム内目立つ場所数カ所に貼って、利用者にもわかりやすいようにしている。理念に基づき、年の初めには個人目標を立て、職員会議時、皆に発表し理解しあっている。 ----- (外部評価) 理念が壮大な内容であるため、それを月及び年目標として具体化することで共有化を図る取り組みを行っている。「日常業務の中で、理念を頭の中で繰り返すことで絶えず基本に立ち返ることができる」との話には、理念の実践に取り組んでいる様子がうかがえる。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	(自己評価) 地域運営推進会議にて、毎回行事報告をし、地域や家族の方に利用者の様子や願いを伝え、協力をお願いしている。地域の行事(祭り・文化展・敬老会他)に積極的に参加し、つながりを大切にしている。家族面会時にはその都度、報告をし、安心していただくと共に、家族からの要望も聞いている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. 地域との支えあい</b>					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 地域の集会にも参加し、コミュニケーションを図りながら地域の人達とのつながりを大切にしている。毎日の犬の散歩時には、こちらからあいさつをするよう、努めている。買い物には、商店街にも出かけ、馴染みの関係を少しでも築いていこうと努力している。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地区の防災講座や、折り紙教室の参加。利用者も数名参加している。毎年伊予市住吉祭りには、造り物の出展・踊り連の参加をしている。踊りながらもグループホーム名の入ったティッシュを配り、見学者にあいさつして歩いた。愛護班の資源ゴミの回収にも毎回協力させてもらっている。 (外部評価) 同法人の他ホームと協働で、運動会や文化祭、地方祭などのイベントを定期的に開催し、地域の方との交流を行っている。また、地域行事は勿論のこと、クリスマスイルミネーションなどの季節行事で近隣住民とのふれあいも行っている。しかし、職員主導のイベント的な交流が多く、日々の近所づきあいの機会が多いとまでは言えない。	※	管理者や職員の働きかけにより、ホーム開設後7年余りで、様々な交流がなされており、ホームが地域に定着している様子がうかがえる。今後はさらに、近所の方が気軽に訪問でき、利用者と関係を深められるような取り組みを期待したい。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 認知症対応型通所介護の受け入れを開始し、現在5名の利用あり。又、毎年秋祭りの行事を実施して、地域の方々の参加を呼び掛け、バザーやゲーム等の楽しみを提供している。地域からボランティア要請があれば、スタッフ参加し得る範囲での地域貢献に取り組んでいる。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 自己評価・外部評価の重要性を伝え、理解してもらい、自己評価・外部評価項目を全員が見直し、日々の介護に活かすようにしている。前年の外部評価での指摘点を全スタッフに伝え、改善方法を皆で考え、それを実行し、レベルアップに努めてきた。 (外部評価) 管理者も職員も自己評価は回数を重ねているので、その意義等は深く理解している。評価に取り組むことで、自らの業務を客観視し、ケアの質について話し合う機会になると捉えており、有用に活用されている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 3ヶ月に一度、地域運営推進会議を開催し、行事報告や、利用者の様子を伝えている。参加者からの意見を大切にし、よい意見はサービス向上に活かしている。  (外部評価) 運営推進会議は定期的開催されており、地域の方と利用者のケアについて話し合う場として定着している。地域行事やボランティアとの交流が多いホームだけに、毎回の議事にそれらの確認事項が多く入っており、活発な話し合いが行われている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 伊予市グループホーム協議会に入り、会議には毎回参加して情報交換を密にとるように努めている。伊予市長寿介護課職員と伊予市ケアマネージャーとの交流会にも参加し、コミュニケーションを図りながら市とともに、質の向上に取り組んでいる。  (外部評価) ホームの立地が市役所と近いこともあり、市担当者等と話し合う機会が多い。また、市独自のグループホーム協議会もあり、細やかで顔の見える交流が行われている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 利用者の中で必要な人がいない為、(去年学んだが)、今年は勉強不足のようにも思える。今後機会があれば、積極的に職員も学ばせようと思う。	※	
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待について、新聞記事があれば、職員にも見せ、知識を広めてもらっている。利用者に対しては、常に接遇に気をつけて、尊厳を守ることを度々言っている。利用者からも困った経験はないか、聞くようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約書にそって説明し、質問にはわかりやすく丁寧に答えるようにしている。納得をしていただいた上で契約してもらうように努めている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族面会時、利用者からの不満や苦情は出ていないか、定期的に家族に聞くようにしている。万一心配事等あれば、全職員に伝え良い方向へと考えて対応している。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 毎月グループホームだよりで、写真も入れて一ヶ月の報告をしている。金銭管理は、毎月の請求時レシートを添付し、明細を知らせている。職員の移動についても、毎月のグループホーム便りで知らせている。面会時、必ず状態報告をして安心していただいている。 <hr/> (外部評価) 家族には毎月のホーム便りで利用者の近況を知らせているが、家族の来訪時に直接報告することを重視している。利用者それぞれの担当職員と管理者が積極的に家族に声をかけ、詳細な報告を行う取り組みがなされている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 地域運営推進会議で、意見他伝えて地域の人達からも意見他もらい参考にさせていただき、運営に反映させるようにしている。 <hr/> (外部評価) 意見箱の設置やアンケートの実施などで意見を収集する取り組みも行っているが、家族等の不満や苦情については直接傾聴することを基本としている。外部評価時にも管理者の傾聴する姿勢が見られ、家族の意見や不満を丁寧に聞き取るうとしている姿勢がうかがえる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 定期的に対面で話す機会を設け、職場の問題点・希望を定期的に聞き、いい提案を取り入れている。又それを実施してどうだったか、振り返るようにしている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 行事の時に、職員を多めに確保したり、必要な時間帯に職員が確保できるよう、勤務表作成時、気をつけている。勤務も職員の希望も聞き、できる範囲内で調整できるように努めている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) この一年以上、管理者の交替はなし。やむおえず移動や離職の際には、そつと適当な理由をつけて説明し、理解してもらうようにしている。利用者へのダメージを防ぐようにしている。  (外部評価) 同法人には3つのホームがあるが、異動はほとんど行われていない。また、近年は離職者も少なく、利用者との馴染みの関係が深まっている。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修内容は、目につきやすいところへ掲示し、希望者はなるべく日勤扱いで活けるようにし、研修に参加しやすい環境を整えている。研修に行った意欲を認め、次回又研修に参加するよう声かけしている。  (外部評価) 職員には内外部の研修に参加するよう促している。また、常勤と非常勤の職員間で研修受講に差が出ないように配慮している。ホームでは、利用者へのサービス向上に関して職員が様々な企画を立てているが、運営者はその企画に対して理解を示し、可能な限り予算立てを行っており、職員のモチベーションを向上させることにもつながっている。	※	研修参加者にばらつきがみられる為、職員全員が何らかの研修に参加するよう、声をかけたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 伊予市グループホーム協議会に入り、市内のグループホーム職員との交流を大切にしている。又実践リーダー研修で一緒になった市内のグループホーム管理者とも情報交換し、良いところを取り入れている。  (外部評価) 同法人の他ホームとの交流だけでなく、市内のホームとも情報交換を行っている。また、協力医療機関が運営しているデイサービスセンターとも行き来があり、利用者に対してサービスの質が向上するよう相互に努めている。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 数ヶ月に一度有給休みをとらせ、連休にするなどして、リフレッシュできるように配慮している。勤務時間後の残業をできるだけ少なくするよう、努力している。休憩時間には、休憩が十分取れるよう気をつけている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう努めている	(自己評価) リーダー・主任の役職をつけ、昇格できるシステムづくりをとっている。努力していることは、様子を本社・部長・社長にも報告し、認めてもらい、向上心を持って働き続けられるよう配慮している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 悩み事があれば、利用者の部屋で一对一でゆっくりと話す機会をとっている。時間がすぐにとれない場合は、勤務時間後にゆっくりと悩みを聞き取り、受けとめるようにしている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 家族の家を訪問したり、グループホーム見学日等で、コミュニケーションをとりながらゆっくりと聞き、受け止める努力をしている。又電話での相談にもいつでも応じている。		



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) いろいろな選択肢も考えた上、一番良い方法を見極めるようにしている。家族の希望・本人の希望を大切にしている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 通所介護等も、お試し日を取り、その結果を聞きながら本人・家族の意志決定を尊重している。疑問点・悩み事もコミュニケーションをとりながら、解決していくようにしている。  (外部評価) ホームでは、通所介護や短期利用型生活介護等の事業も行っており、在宅の利用者と馴染みの関係を構築するような仕組みがある。施設や病院からの利用者に対しては、まずホームや職員を知ってもらうことが必要と、声かけ等を積極的に行っている。また、利用者同士が馴染むことも重要と考え、散歩や行事などを利用し、話し合う機会づくりに力を入れている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 本人の持っている能力を最大限に発揮して生き生きと生活していただけるよう、職員全員で配慮している。食事づくり・洗濯関係・庭の園芸関係・物づくり等、人生の先輩としてアイデアや意見も参考にさせていただき、一緒に行える事を行っている。  (外部評価) 理念の中にも「人生の先輩」として敬うことを掲げており、職員は、教えてもらうというスタンスで臨んでいる。「利用者から色々なことを教えてもらい、精神的にケアを受けている」との職員の話に、支えあう関係が構築されていることがうかがえる。		
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 昔の状態・生活の様子を聞きながら、本人の大切にしてきたこと・価値感を聞き取り、情報を共有しながら、喜怒哀楽を共にし、現在の様子を説明して一緒に本人を支えていく関係を築いている。必ず良いことを一つは話し、家族に安心していただけるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 本人や家族から、それぞれ希望や心配事を聞き、上手に伝えながら、より良い関係が築いていけるよう努力をしている。トラブルあれば、早期解決につなげている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 玄関の扉を開放し、馴染みの人たちがいつでも面会に来れるような環境を整えている。本人が行きたい場所や、帰りたい家があれば、可能な限り実現させ、そこでの近所の人たちとの関係が途切れないようにしている。1ヶ月に1度くらい、自宅へ帰るとの願いをかなえている利用者あり。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 常に職員はアンテナをはって仕事をする中、孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように配慮している。支え合ってできた時など、必ず褒めるようにしている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 入院した場合、必ず見舞いに行き、状態把握に努めている。又本人や、家族からの相談にも応じるようにしている。入院が長期となれば、定期的に見舞いに行き、顔をみせることもある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 毎日の生活の中や、話し合いの中で、利用者の思いや意向を把握し、確認し、職員全体がそれを把握できるよう努めている。困難な場合は、家族の希望も参考にしながら、その人らしい暮らしが続けられるように努力している。 <hr/> (外部評価) 管理者や職員は、利用者とは過ごす時間が長く、仕草や会話等からその人の思いを汲み取ることができている。しかし、利用者と一緒に生活している間に知り得た情報は記録化されていないため、職員間で共有化されているかの客観的な確認が難しい。	※	管理者や職員は利用者の話を丁寧に聞きとっているため、多くの情報を持っている状態にある。貴重な情報は財産であり、サービスの質の向上に不可欠なものであるため、記録化していくことを望みたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) センター方式の用紙の記入により、これまでの生活歴や暮らし・生活環境等の把握に努めている。わからない点は、面会時に家族に可能な範囲で聞き取り、シートをうめていつている。半年に一度くらいで見直しをおこなっている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) せんだー方式のシートの活用 「できます・できないシート」のチェックにより、ADL・IADLの把握を半年に一度行っている。病歴も一覧表にまとめ、すぐに把握できるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 毎月一回、ケアカンファレンスを開き、その利用者の望み・課題・介護方法をスタッフで話し合い、確認し、介護計画を立てている。正看護師の参加も毎回あり、病状・ケアについて学ぶ機会にもなっている。  (外部評価) 介護計画の素案は利用者それぞれの担当職員全員が出し、全員で話し合っている。会議で出された内容を管理者や計画作成担当者がまとめ、介護計画を作成している。医療的な面ではホームの看護師が関わり、かかりつけ医とも相談のうえ介護計画に反映させている。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 3～4ヶ月に一度、ケアカンファ時に毎回スタッフで見直しを行い、その時の状態にあった介護計画を作成している。もちろん、入院やけが・急変時には、その都度見直しを行っている。その際、本人の希望や家族の希望等公表し、スタッフ全員が希望事項を把握するようにしている。  (外部評価) 介護計画は3～4か月毎に、また急変等があった場合はその都度見直しを行っている。計画内容の継続や見直しについては、日々のモニタリングを基に検討している。しかし、モニタリングの客観的なデータは記録として介護日誌に記載されているが、介護計画の資料として有効に活用されているとまでは言えない。	※	日々の介護記録は丁寧に記載されているため、貴重なデータとなっている。介護計画と関連付けることで、客観的な視点から利用者の現状を把握することが可能と考えられるので、担当職員による集計など、有効な活用を期待したい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個人別に、日々の記録を毎日時間を追って記入し、個人別カルテにまとめていき、いつでもスタッフが見えるようにしている。入浴他ケアの実施の有無が一目でわかるようにしている。ケアプランが実行できたら、○印をするようにし、介護計画の見直しに活かしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 現在 認知症対応型通所介護を一日3名まで、受け入れている。家族の要望があれば、時間を延長して数時間介護を行ったこともある。  (外部評価) 通所介護や短期利用などの制度的な機能のほか、同法人が他ホームも運営していることから、人材や設備的にネットワーク化が図られており、催し物などの際には力が発揮されている。また、家族の協力を得ながら墓参りなどの細やかな支援も行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 地域運営推進会議時、民生委員からの意見も参考に、地域とのつながりを大切にしている。年に2回の消防訓練では、消防署員立ち会いのもと、消火訓練他行っている。中学校生徒の職場体験受け入れ毎年実施。伊予農業高校による園芸セラピーも毎月のようにあり。ボランティア毎月あり。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) グループホームを気に入っていただいております、本人・家族より、他のサービス利用の話は今のところないが、要望が出た場合は、連絡を取り合いながら支援をしていきたいと思う。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 地域包括支援センター職員に来ていただき、仕事内容・これまでの実績等について、紹介をしていただいた。伊予市ケアマネジャー会でも話す機会を持つことができた。今後も協働しながら、必要時利用者を支援していきたいと思う		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 近藤医院・いよ整形・たきぐち歯科他、かかりつけ医がいる。本人及び家族の希望を大切に、適切な医療が受けられるようにしている。近藤医院からは、日曜日以外、毎日往診あり。必要時は定期的に受診をしている。 (外部評価) かかりつけ医は本人や家族等の希望が基本となっているが、ホームの協力医療機関も利用者全員の状況を把握している。協力医療機関からほぼ毎日の往診があり、利用者及び家族も安心している。管理者や職員も協力医療機関を信頼しており、医療面で安心な体制が構築されている。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 利用者の中にスタッフ付き添いにてこにし診療クリニックを定期的に受診している方がいる。わからない事は相談するようにしている。もちろん、提携している近藤医院院長にも必要時相談している。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 職員の中に正看護師1名・准看護師1名いるので、利用者の病状他いつでも相談できるようになっている。夜間の急変時等も、看護師の携帯に連絡を取り、処置の確認をとったりもしている。近藤医院の看護師にも相談し、協働。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院時には、必ず職員も同行し、グループホーム内の状態や、ADL等 基本情報を伝え、利用者が安心して過ごせるようにしている。途中で必ず見舞いに行き、病院関係者との情報交換に努めている。早期退院できるよう配慮し、連携している。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 入居時に「看取りについて」の書類に選択項目があり、確認を行っている。病状が悪化した場合など、近藤医院と連絡を取り、家族に説明しながら、話し合いを持っている。結果は職員全体に伝え、情報を共有している。 (外部評価) ホームとして「看取り指針」を作成し、ターミナルケアに対して準備を進めている。職員同士や、家族等とも話し合いを始めているが、取り組みがスタートしたばかりで具体化や共有化が図られているとまでは言えない。	※	終末期に関して、ホームとしてできること、難しいことの区分を、職員と共に具体例を想定しながら話し合っていくことが求められる。また、終末期の考え方には家族とホームの間にズレがある場合もあるため、ホーム側から機会ある毎に話し合うことが望ましい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 利用者や家族の希望にそって、事業所でできる範囲の事を行う。かかりつけ医の指示のもと、職員全員が同じ方針で看護・介護を行う。家族に現状を伝え、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 入居前の本人・家族・ケアマネージャーとの面会・訪問等により、病歴・家庭環境他基本情報の把握に努め、必要ならば数回重ねた後、入居していただくようにしている。入居前に、全職員がケアに関し情報を共有するようにしている。入居後も利用者の状態を家族に伝え、不明な点は確認を行い、解決し安心していただけるようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	(自己評価) 利用者へは尊敬の気持ちを込めて接するように度々伝えている。接遇で気になる時には、その都度注意し、気をつけさせている。人生の先輩であること、感情を持った一人の人間であることを忘れず対応・記録を行っている。 (外部評価) 認知症が進んでいる利用者にも、否定するのではなく、理解していることを示しながらゆっくりと安全な動作になるように声をかけるなど、誇りを尊重した関わりに努めている。また、記録の管理も専用の部屋で適切に行われている。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 何をどのようにしたいのか、具体的に聞くように心がけている。わかる範囲で、選択する事も大切にしている。希望の表出や自己決定中も表情に気をつけ、納得しているかどうか気を配っている。自分で決めたことに対し、褒めてその過程を大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 毎朝健康体操をしているが、強制参加ではなく一人ひとりのペースを大切にしている。行事や手作業時も利用者の気持ちを大切に、無理強いをしないようにしている。あくまでも、個人のペース・生活スタイルを優先するようにしている。  (外部評価) ホームとしての一日の生活スケジュールはあるが、あくまでも目安としており、利用者のペースを優先した支援を心がけている。利用者は、毎日行う健康体操を日課として楽しみにしており、健康維持を強制的に行うのではなく、生活にハリの出る楽しみごととして取り組んでいる。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 外出時には、その人らしい身だしなみや、おしゃれができるよう、洋服・アクセサリーを選んでいただき、スカーフをつけてみるなどして支援している。望む時はマニキュアをすることもあり。女性としての楽しみを大切にしている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の下準備（ごぼうのさがき・ジャガイモの皮取り他）手伝っていただいている。配膳時、食器への盛りつけもその方の力を活かしていただいている。毎回食後、自分で食器をさげたり、テーブルを拭いたりできている利用者もいる。おやつづくりも一緒にしている。  (外部評価) 職員と一緒に準備や後片付けを行うことを楽しんでいる利用者や、それを指示する利用者など、自然で和やかな様子がかがえた。口から食べることが元気になることと考えており、盛り付けや食態等にも工夫を行っている。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 高齢の為、お酒を飲みたいと言う利用者はいない。ただ敬老会等の参加時は、希望あれば少し飲んでいただいている。タバコも本人希望時、介助にて喫煙室にて吸っていただいている。103歳という高齢の為、好きなだけ楽しんでいただいている、飲み物・おやつもいろいろと工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 良いレベルをなるべく維持できるよう支援している。尿意訴えできない利用者でも、しぐさや表情をよく観察して、トイレ誘導をおこなっている。夜間オムツ使用の利用者でも、尿意訴えあれば、トイレ誘導を行い、気持ちよく排泄できるよう支援している。どうありがたいか、話を聞いている。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 2日に一回、入浴をゆっくりと楽しんでいただいている。時間帯は本人の希望を聞き、なるべくその時間に入れるようにしている。万一体調不良等で入浴できない場合でも、本人が望めば、洗髪・足浴・清拭等を行い、清潔に気持ちよく過ごせるようにしている。  (外部評価) 入浴の時間帯はなるべく利用者の希望にそうようにしているが、集団生活であることから難しい面もあり、その場合は足浴や清拭などで対応している。入浴支援は、利用者と職員が一对一で信頼関係を深める時間であるとの認識が深く、丁寧な支援に努めている。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者本位とし、食後や、活動後希望あれば、いつでもベッドでやすんでもらえるようにしている。自分でベッド臥床できない利用者は、介助にて支援している。部屋の温度管理や照明・季節に応じた布団の調節にも気を配っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 洗濯物干し・たたみ・仕分け・各部屋への届け関係、食事の下ごしらえ・配膳、食器洗い関係、部屋の掃除関係、庭の草引き関係・物づくり関係等、できる範囲の役割、楽しみごと、気晴らしの支援を行っている。感謝の気持ちをいつも伝え、意欲的にしていただいている。  (外部評価) 職員と利用者は多くの時間を一緒に生活しているため、それぞれのできることで、難しいこと、サポートすれば可能なこと等についての理解が深い。その中で役割や楽しみごとを生活に組み込む取り組みに努めている。役割づくりは居場所づくりという認識のもと、積極的な支援を行っている。		



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人の希望を大切に、少額を所持したり、使えるように支援している。2週間に一度、「買い物の日」をもうけ、近くのスーパーや商店街へ出かけ、レベルに合わせてお金を払っていただいている。管理できない利用者のお金は、預らせていただいている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 天気の良い日は、一日一回は中庭に出て、新鮮な外の空気を吸うようにしている。希望あれば、近くへ散歩したり、車椅子を押して季節の花を見ていただきながら、近所の方々とふれあいの機会をつくっている。  (外部評価) 職員は、利用者と一緒に生活を楽しんでいる感が強く、外出も生活を彩る行為の一つとして積極的に支援している。園芸療法の場としてのホームの前庭も目を楽しませるものになっており、外気浴には格好の場となっている。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 2ヶ月に一度、どうしても一人暮らしをしていた自宅へ帰り、窓を開け空気の入れ換えをしたいという、利用者おり。スタッフ付き添いで帰り、窓を開け近所の人達との会話を楽しんでもらっている。年に一度の誕生日の企画として、行きたい場所へお連れし、満足してもらっている。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望時、電話をかけて話しができるようにしている。年末には、年賀状を希望者は書いていただき、家族とのやりとりを楽しんだ。普段手紙を書いた利用者は、希望があれば、ポストへの投函をしている。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) グループホームのドアはなるべく解放し、いつでも気軽に訪問できるようにしている。職員が笑顔で迎え、訪問客全員にお茶や、コーヒー等の飲み物・おやつの中には利用者と同じおやつを出して、いすや小テーブルも用意し、居心地良く過ごしていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束がなぜいけないのかについて学び、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。又万一、必要になった場合は、家族の同意者をもろうよう、用意している。身体拘束をしないで介護する為に、見守りや環境整備に気をつけている。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) すべての職員が、日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。ただ入居まだ半年もたない事もあり、帰宅願望の強い利用者があり、玄関の戸をあけて出られるため、必要時は玄関に長いすを置く場合もある。もちろん、居室や門のをかける事は無い。  (外部評価) 玄関入口は、夜間の防犯目的以外には鍵はかけていない。職員の見守りを重視しており、利用者の安全に配慮している。	※	帰宅願望の強い利用者が数人いるが、見守りを今まで以上にしていこうと思っている。
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 異物を口に入れてしまう利用者や、帰宅願望の強い利用者いるため、利用者の所在の確認・環境整備・様子の把握を プライバシーに配慮しながら行っている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 異物を口にのける利用者もいるが、見守りを十分におこなうようにして、必要時片づけるようにし、危険を防ぐ取り組みをしている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 職員の研修参加(ケアマネ研修他)により、知識を学び、それを他の職員に伝え、一人ひとりの状態に応じてどのようなケアをしたらよいか、スタッフ全員で話し合いをした後、実行している。タバコは絶対居室では禁煙とし、喫煙室でと決めてある。年に2回の避難訓練今年も実施。		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) てんかん発作を起こす可能性のある利用者おり、定期的に初期対応の確認を行っている。救急時の電話連絡網あり・進め方のマニュアル版あり。急変時も慌てず対応ができるようにしている。火災時の避難訓練・消火器訓練も昼間想定・夜間想定でそれぞれ行っている。		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 年に2回の避難訓練には、消防職員立ち会いで行った。利用者の火災予防に関するビデオを見て勉強を行い、火事の怖さ・避難時の注意点を確認した。又、地域運営推進会議で定期的に火災時・地震時・水害時の避難について協力要請を行っている。  (外部評価) 定期的に、夜間想定も含めた避難訓練を行っており、また運営推進会議でも重要な議題として話し合いが行われている。地域から、災害の場合はホームを避難所として開放してほしいと依頼されており、地域と双方向で災害対策に取り組んでいる。		
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	(自己評価) 転倒の危険性のある利用者・迷子になる可能性のある利用者・高齢の為にADLの低下がみられる利用者他について、それぞれの起こり得るリスクについて家族等に説明し、対応策も説明し、納得していただいている。状態の変化や、病気に関しても随時報告の電話を入れている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎日午前・午後とバイタルを測定し、夜勤者に申し送ると共に、体調の変化や異変あれば、その日の全職員に伝え、情報を共有し対処している。日勤者・夜勤者それぞれ、連絡ノートや夜勤記録ノートにより、情報をつかむことができる。朝・夕の申し送り時間には、その時間帯の全職員集合。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 「お薬手帳」の確認、処方せんをカルテに毎回綴じて、職員のだれもがいつでも、利用者の薬の確認ができるようにしている。新しい薬の開始時・終了時は、連絡ノートに必ず書き、全職員が情報を共有できるようにしている。薬の服用時の注意点・オブラート使用者も全員が理解している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 便秘者には、バナナやヨーグルト・芋類をすすめたり、や買ってきて食べていただいたりしている。お腹のマッサージや運動が大切である事も伝え、付き添って運動もしていただいている。頓服の便秘薬も用意しており、必要時は飲んでいただいている。もちろん、毎日排便の有無の確認済み。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後、一人ひとりにあった口腔ケアを行っている。介助が必要な利用者には、セッティング・声かけ・介助を行っている。定期的にコップや歯ブラシのチェックを行い、消毒もおこなっている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食べる量が少なかったり、栄養バランスの偏りのある利用者には必要時、エンシュアを飲んでいただいている。朝・午前の体操後・昼・おやつ・夕・夕食後とそれぞれ、水分補給をしている。夜間もコップ・ペットボトル・吸い飲み等にお茶を用意している。いつでも飲めるように、準備している。 <hr/> (外部評価) 外部業者に食材を依頼し、適切なカロリーと栄養バランスの確保に努めている。栄養士であるホームの担当者が、見た目や季節感にも配慮するよう打ち合わせを定期的に行っている。利用者の状態によっては刻み食やミキサー食にしたり、量の調整などを行っている。摂取量については食事、水分共に日誌に記入している。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) インフルエンザの予防接種を家族了解のもと、受けていただいている。毎日ですりやトイレ・洗面所のレバー他ジヤ消毒を行っている。食器は毎回熱湯消毒。まな板・包丁も熱湯消毒やジヤ消毒を度々行っている。利用者外出から帰った時も手洗い・うがいを徹底している。対応の取り決めあり。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) ジヤ消毒や熱湯消毒により、衛生管理に努めている。生物は控え、キャベツや大根等も一度湯通ししてから使用している。冷蔵庫の温度に注意して、冷蔵庫保管をしている。冷蔵庫内の整理・整頓にも気をつけている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 日中 門は常時開放し、玄関も天気の良い日はできるだけ開放し、安心して出入りができるようにしている。門近くや中庭にはいつも四季おりおりの花を絶やさないようにし、親しみやすい雰囲気を大切にしている。建物周囲は常に植木の手入れや片付けを行い、清潔感が出るようにしている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 玄関には、つばにいつも草花を絶やさないように心がけ、季節感を取り入れている。壁の大きいカレンダーや手作りの絵にも、季節感を取り入れ工夫している。テーブルや洗面所にも一輪さしで花をかざったり、採れた野菜を置くなどしている。トイレも居心地良く配慮している。 <hr/> (外部評価) ホームの造りは全体的にゆったりとしている。共用空間には大きなテーブルを並べているが、天井面に吹き抜けがあり、空間的にも圧迫感がない。また、小上がりのある量のスペースもあり、心地よい空間になっている。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) テーブルの上には、常にお茶を用意しておき、飲みたい時にいつでも飲めるようにしている。居間も自由にあっていただけるよう、座布団や小物を置いている。ソファや玄関ホー椅子も椅子カバーをして あたたかい雰囲気をだしている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 馴染みのテレビや家具を置き、好みの置物を自由に飾っていただき、本人が居心地良く過ごせるように工夫している。家族の写真や位はいを置いている利用者もいる。しきびや水をかえたり介助している。模様替えも本人の希望を聞きながら行い、居心地よく過ごせるような工夫をしている。 <hr/> (外部評価) 利用者により配置されている家具は異なるが、それぞれ使い慣れたものを持ち込んでいる。また、写真や絵なども飾られており、個性豊かな部屋となっている		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 各部屋換気扇あるが、窓も開けて空気の入換えをしている。訪室時他室温のチェックを行い、エアコンの調節を行っている。夜間もこまめに、温度調節をしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	(自己評価) 建物はバリアフリー構造で、手すりもついており、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫しているベッドの位置や柵の本数にも気を付けている。必要な方には歩行器や押し車・杖を使用していただき、置き場所にも気を付けている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 一人ひとり能力に応じて理解していただき、納得して生活していただいている。繰り返し説明の必要な利用者には、その都度ゆっくりと、笑顔で説明するよう心掛けている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) いつでも庭の散歩ができるよう、玄関から出入りができやすいように配慮している。ベンチを置き、いつでも休憩ができ、庭の手入れがしたい利用者はいつでも職員見守りでしていただいている。庭内の畑にもいつでも行って野菜をさわるができる。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない (自己評価)	センター方式の用紙の活用により、職員は利用者の思いや願い・暮らし方の意向を掴んでいる。本人が十分に言葉で表現できない利用者さんの願いは、家族から詳しく聞き、職員に伝えている。入居3～5年の利用者も数人おられ、表情やしぐさからも、いろいろと解る事も多い。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない (自己評価)	毎日全体で、又個別で時間をとり、一緒に手作業をしたり、話を聞く時間をつくっている。利用者をあせらさない介護を常にこころがけている。万一時間がとれなかった場合には、勤務時間後居室を訪問し、ゆっくりと話を聞くようにしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない (自己評価)	朝食も起床後、支度のできた利用者さんから順に食べていただいております、その方のペースを大切にしている。掃除・洗濯・炊事も強制ではなく、利用者の意志でしていただいている。入浴も入りたい時間を聞き、なるべくその時間に入らせていただいている。その方の生活のリズムを大切にしている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない (自己評価)	何をすることが、その利用者にとって快となるのか、生きがいは何かを掴んでいるので、その事を大切に、日々の生活を積み重ねているので、生き生きとした表情や姿がみられる。その表情や姿を見ることが職員の仕事への意欲につながっている。良い新しい表情が見られた時は、情報を交換している。
92	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている	① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない (自己評価)	毎日行けませんが、天気や体調をみて、希望する場所へお連れしている。2ヶ月に一度くらい自宅へ帰って窓を開放したいという、一人暮らしだった利用者の希望も取り入れている。1週間に一日、ドライブや買い物の日も設け、望みをかなえられるように努力している。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない (自己評価)	職員に看護師2名おり、健康管理面で不安な事があれば、いつでも相談できるようにしている。一日2回のバイタル測定により、異常の早期発見に努めている。かかりつけ医の往診が、ほぼ毎日あり。月に一度の受診もあり。提携している協力機関あり。安全面も事故のないように、毎日気を配っている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない (自己評価)	要望を自由に話せる雰囲気や大切に、要望に応じた柔軟な支援をおこなっている。娘の所へつれてほしい・位は部屋におくので、毎日水他かえてほしい・新しい下着を買ってきてほしい・補聴器を直したい等、気軽に相談して下さり、柔軟な支援を行っている。必要時は家族の協力をお願いする。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	① ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない (自己評価)	面会時等でコミュニケーションをとりながら、要望他聞いているので、安心して話をさせていただいている。個人情報の取り扱いには特に注意している。家族も笑顔で職員とよく話はずんでい。今の信頼関係を大切にしたい。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない (自己評価)	元職員や、ボランティアの方々・ユニットいよの職員・利用者・地域運営推進会議のメンバー・介護相談員等も訪ねてきている。伊予農業高校生の園芸セラピーを受けており、先生ともすっかり顔馴染みとなり、親しそうにおしゃべりする姿も見られる。去年よりも訪問客増えている。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	① 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) ③ あまり増えていない ④ 全くいない	少しずつ顔なじみとなった地元の関係者の方もおられ、おしゃべりする姿も見られるようになった。近所への散歩や商店街に出かけることにより、話かけてくださる地域住民もふえてきた。家族を通しての関係者もでてきて、応援していただいている。
98	職員は、生き活きと働いている	① ほぼ全ての職員が (自己 ② 職員の2/3くらいが 評価) ③ 職員の1/3くらいが ④ ほとんどいない	18歳から60歳をこえる職員まで、幅広い年齢層の職員で構成されている。女性の職員が多いが、皆仲が良く、楽しく働いている。希望の休みをほとんど可能にしている。子供が小さい職員も安心して働いている。個性を尊重し、長所を發揮できるようにして、活気あふれる職場づくりに努めている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	笑顔・感謝のことばも見られる。頼りにしてもらっていると思う。ある利用者は、「今までいろいろ行っただけで、ここが一番よ。もっと早うきたらよかった」「5重○ね、ここは」と言ってくさる。もっともっと満足していただけるように、努力していこうと思う。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) ③ 家族等の1/3くらいが ④ ほとんどできていない	面会時他、笑顔と感謝の言葉をいただいている。度々面会に来られ、安心して帰っていただいている家族も多い。解らないことは聞いてくださり、納得されている。意見箱を定期的にチェックするが、苦情は入っていない。もっと満足していただけるよう、サービスの向上を図りたい。

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

中庭で草花を利用者と一緒に育て、四季おりおりの花を咲かせ、一緒に楽しんでいる。玄関や居間・テーブルの上・洗面所にも花や季節の物をかざり、季節を感じていただけるようにしている。秋なら、ススキ・彼岸花・栗の実・コスモス・紅葉した葉・稲穂他本物に触れ、においをかぎ、懐かしんでいただいている。昔を思い出し、話もはずんでいる。園芸セラピーでは、花の寄せ植え・二十日大根の種まき・間引き・野菜の苗植え・水やりもできる範囲で、利用者さんに手伝ってもらった。土に触れること・可能な範囲で職員と一緒に屋外で過ごすこと・汗を流すこと・・・高齢者ではあるが、できる範囲のことを取り入れ、情緒豊かに過ごしていただけるよう努めている。今年较去年よりも、手作りのおやつづくりを多くした。利用者さんも三角巾・エプロンをつけて可能な範囲で参加していただいた。よもぎの入ったおもち・醤油餅・みたらしだんご・パン・ホットケーキ・どら焼き・プリン・かき氷・・・他。餅はきねとうすをもちこんで交代でついたりもした。あんをまるめたり、かしわの葉をふいたり、皆さんそれぞれに役割があり、昔を思い出しながら楽しんでいた。やはり、食べることに限っては積極的にいられる利用者が多かった。毎月のケアカンファレンス日に、職員会議の場とし、情報交換や意見交換の場としている。裏ワザ・ヒント発表と題して、一人一人日頃の介護の中で、「こうしたらうまくいった・この利用者さんにはこの言葉かけなら大丈夫」という経験談を発表した。自分の知らなかった方法を知り、実践できるようになり効果が上がったと思う。日頃から情報交換を密にして、介護の質の向上に努めている。職員にも皆、長所があり、得意分野がある。得意分野をそれぞれが發揮し、それを他の職員も認め、生き活きと働ける職場になってきていると自己評価している。大好きな利用者様の為は何でも話し合い、意見の言い合える職場へと、今後も全職員で努力していきたい。毎日利用者の明るい笑顔があふれるグループホームを目指し、日々努力していきたいと思っている。



(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

#### I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

#### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

#### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

#### V. サービスの成果に関する項目

**ホップ 職員みんなで自己評価!**  
**ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!**  
**ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!**

ーサービス向上への3ステップー  
**“愛媛県地域密着型サービス評価”**

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
  - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
  - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

ユニット ぐんちゅう

(ユニット名)

B 棟

記入者(管理者)

氏名

武智 美知子

評価完了日

平成 20 年 9 月 25 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 「悔いの残らないお世話をさせていただきます」を理念に掲げ、具体的には、その人らしさを尊重し、明るい笑顔でゆったりと生活していただけるよう努めている。センター方式を取り入れ、利用者一人一人のニーズを把握し、地域の一員として生活していただけるよう支援している。散歩・買い物・催し物他に出かけ、地域の人々との交流を大切にしている。 <hr/> (外部評価) ホームの理念は、運営者の信念でもある。「悔いが残らないケア」には、多方面の視点や協力が必要であることを痛切に感じており、地域の方は欠かせないものと考えている。そのために地域との関わりを積極的にもつよう努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 毎朝の申し送り時、理念と今月の目標を スタッフ全員で声を出し復唱している。今月の目標は、理念に基づいて毎月交代でスタッフが考え、グループホーム内目立つ場所数カ所に貼って、利用者にもわかりやすいようにしている。理念に基づき、年の初めには個人目標を立て、職員会議時、皆に発表し理解しあっている。 <hr/> (外部評価) 理念が壮大な内容であるため、それを月及び年目標として具体化することで共有化を図る取り組みを行っている。「日常業務の中で、理念を頭の中で繰り返すことで絶えず基本に立ち返ることができる」との話には、理念の実践に取り組んでいる様子がうかがえる。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 地域運営推進会議にて、毎回行事報告をし、地域や家族の方に利用者の様子や願いを伝え、協力をお願いしている。地域の行事(祭り・文化展・敬老会他)に積極的に参加し、つながりを大切にしている。家族面会時にはその都度、報告をし、安心していただくと共に、家族からの要望も聞いている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. 地域との支えあい</b>					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 地域の集会にも参加し、コミュニケーションを図りながら地域の人達とのつながりを大切にしている。毎日の犬の散歩時には、こちらからあいさつをするよう、努めている。買い物には、商店街にも出かけ、馴染みの関係を少しでも築いていこうと努力している。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地区の防災講座や、折り紙教室の参加。利用者も数名参加している。毎年伊予市住吉祭りには、造り物の出展・踊り連の参加をしている。踊りながらもグループホーム名の入ったティッシュを配り、見学者にあいさつして歩いた。愛護班の資源ゴミの回収にも毎回協力させてもらっている。 (外部評価) 同法人の他ホームと協働で、運動会や文化祭、地方祭などのイベントを定期的に開催し、地域の方との交流を行っている。また、地域行事は勿論のこと、クリスマスイルミネーションなどの季節行事で近隣住民とのふれあいも行っている。しかし、職員主導のイベント的な交流が多く、日々の近所づきあいの機会が多いとまでは言えない。	※	管理者や職員の働きかけにより、ホーム開設後7年余りで、様々な交流がなされており、ホームが地域に定着している様子がうかがえる。今後はさらに、近所の方が気軽に訪問でき、利用者と関係を深められるような取り組みを期待したい。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 認知症対応型通所介護の受け入れを開始し、現在6名の利用あり。又、毎年秋祭りの行事を実施して、地域の方々の参加を呼び掛け、バザーやゲーム等の楽しみを提供している。お化け屋敷準備等地域からボランティア要請あれば、スタッフ参加しできる範囲での地域貢献に取り組んでいる。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 自己評価・外部評価の重要性を伝え、理解してもらい、自己評価・外部評価項目を全員が見直し、日々の介護に活かすようにしている。前年の外部評価での指摘点を全スタッフに伝え、改善方法を皆で考え、それを実行し、レベルアップに努めてきた。具体的には避難用救急袋の用意を含む。 (外部評価) 管理者も職員も自己評価は回数を重ねているので、その意義等は深く理解している。評価に取り組むことで、自らの業務を客観視し、ケアの質について話し合う機会になると捉えており、有用に活用されている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2～3ヶ月に一度、地域運営推進会議を開催し、行事報告や、利用者の様子を伝えている。参加者からの意見を大切にし、よい意見はサービス向上に活かしている。具体的には、散歩をより多く取り入れてあげてほしい・童謡・唱歌等のBGMを自然に聞かせてあげてほしい・良い刺激を大切に・・他  (外部評価) 運営推進会議は定期的開催されており、地域の方と利用者のケアについて話し合う場として定着している。地域行事やボランティアとの交流が多いホームだけに、毎回の議事にそれらの確認事項が多く入っており、活発な話し合いが行われている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 伊予市グループホーム協議会に入り、会議には毎回参加して情報交換を密にとるように努めている。伊予市長寿介護課職員と伊予市ケアマネージャーとの交流会にも参加し、コミュニケーションを図りながら市とともに、質の向上に取り組んでいる。  (外部評価) ホームの立地が市役所と近いこともあり、市担当者等と話し合う機会が多い。また、市独自のグループホーム協議会もあり、細やかで顔の見える交流が行われている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 利用者の中で必要な人がいない為、(去年学んだが)、今年は勉強不足のようにも思える。今後機会があれば、積極的に職員も学ばせようと思う。	※	管理者や副ホーム長のみならず、全職員が理解できているよう、学ぶ機会を持つようにしたい。10月下旬のケアカンファレンス時に勉強会を持つ予定。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 新聞記事などを見せ、高齢者虐待について学ぶ機会を設けている。管理者自らリスクマネージャーの資格も今年度取得して、患者満足度向上のマネジメント他について学んだ。現在事業所内で、勿論虐待は行われていないと断言できるが、今後も注意を払い、防止に努めようと思う。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 家族との話合いの会をもち、家も訪問し、十分な説明と質問にも答えてから契約を結ぶようにしている。解約の際も、理解・納得を図ってトラブルのないように気をつけている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族面会時、利用者からの不満や苦情は出ていないか、定期的に家族に聞くようにしている。万一心配事等あれば、全職員に伝え良い方向へと考えて対応している。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 毎月グループホームだよりで、写真も入れて一ヶ月の報告をしている。金銭管理は、毎月の請求時レシートを貼付し、明細を知らせている。職員の移動についても、毎月のグループホーム便りで知らせている。面会時、必ず状態報告をして安心していただいている。 <hr/> (外部評価) 家族には毎月のホーム便りで利用者の近況を知らせているが、家族の来訪時に直接報告することを重視している。利用者それぞれの担当職員と管理者が積極的に家族に声をかけ、詳細な報告を行う取り組みがなされている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 地域運営推進会議で、意見他伝えて地域の人達からも意見他もらい参考にさせていただき、運営に反映させるようにしている。現在のところ、重大な不満等はない。 <hr/> (外部評価) 意見箱の設置やアンケートの実施などで意見を収集する取り組みも行っているが、家族等の不満や苦情については直接傾聴することを基本としている。外部評価時にも管理者の傾聴する姿勢が見られ、家族の意見や不満を丁寧に聞き取ろうとしている姿勢がうかがえる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 定期的に対面で話す機会を設け、職場の問題点・希望を定期的に聞き、いい提案を取り入れている。又それを実施してどうだったか、振り返るようにしている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 行事の時に、職員を多めに確保したり、必要な時間帯に職員が確保できるよう、勤務表作成時、気をつけている。勤務も職員の希望も聞き、できる範囲内で調整できるよう努めている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) この一年以上、管理者の交替はなし。やむおえず移動や離職の際には、そつと適当な理由をつけて説明し、理解してもらうようにしている。利用者へのダメージを防ぐようにしている。  (外部評価) 同法人には3つのホームがあるが、異動はほとんど行われていない。また、近年は離職者も少なく、利用者との馴染みの関係が深まっている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修内容は、目につきやすいところへ掲示し、希望者はなるべく日勤扱い又は有給休暇を利用してで行けるようにし、研修に参加しやすい環境を整えている。研修に行った意欲を認め、次回又研修に参加するよう声かけしている。研修報告もして職員のレベルアップを図っている。  (外部評価) 職員には内外部の研修に参加するよう促している。また、常勤と非常勤の職員間で研修受講に差が出ないように配慮している。ホームでは、利用者へのサービス向上に関して職員が様々な企画を立てているが、運営者はその企画に対して理解を示し、可能な限り予算立てを行っており、職員のモチベーションを向上させることにもつながっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 伊予市グループホーム協議会に入り、市内のグループホーム職員との交流を大切にしている。又実践リーダー研修で一緒になった市内のグループホーム管理者とも情報交換し、良いところを取り入れている。サービスの質の向上に取り組んでいる。  (外部評価) 同法人の他ホームとの交流だけでなく、市内のホームとも情報交換を行っている。また、協力医療機関が運営しているデイサービスセンターとも行き来があり、利用者に対してサービスの質が向上するよう相互に努めている。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 数ヶ月に一度有給休暇をとらせ、連休にするなどして、リフレッシュできるように配慮している。勤務時間後の残業をできるだけ少なくするよう、努力している。休憩時間には、休憩が十分取れるよう気をつけている。明るい楽しい職場づくりを目指している。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) リーダー・主任の役職をつけ、昇格できるシステムづくりをとっている。努力していることは、様子を本社・部長・社長にも報告し、認めてもらい、向上心を持って働き続けられるよう配慮している。長所を伸ばす努力をしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 悩み事があれば、利用者の部屋で一对一でゆっくりと話す機会をとっている。時間がすぐにとれない場合は、勤務時間後にゆっくりと悩みを聞き取り、受けとめるようにしている。その後の経過にも気を配っている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 家族の家を訪問したり、グループホーム見学等で、コミュニケーションをとりながらゆっくりと聞き、受け止める努力をしている。又電話での相談にもいつでも応じている。共感する態度を大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) いろいろな選択肢も考えた上、一番良い方法を見極めるようにしている。家族の希望・本人の希望を大切にしている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを始めるために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 通所介護等も、お試し日を取り、その結果を聞きながら本人・家族の意志決定を尊重している。疑問点・悩み事もコミュニケーションを取りながら、解決していくようにしている。  (外部評価) ホームでは、通所介護や短期利用型生活介護等の事業も行っており、在宅の利用者と馴染みの関係を構築するような仕組みがある。施設や病院からの利用者に対しては、まずホームや職員を知ってもらうことが必要と、声かけ等を積極的に行っている。また、利用者同士が馴染むことも重要と考え、散歩や行事などを利用し、話し合う機会づくりに力を入れている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 本人の持っている能力を最大限に発揮して生き生きと生活していただけるよう、職員全員で配慮している。食事づくり・洗濯関係・庭の園芸関係・物づくり等、人生の先輩としてアイデアや意見も参考にさせていただき、一緒に行える事を大切にしている。  (外部評価) 理念の中にも「人生の先輩」として敬うことを掲げており、職員は、教えてもらうというスタンスで臨んでいる。「利用者から色々なことを教えてもらい、精神的にケアを受けている」との職員の話に、支えあう関係が構築されていることがうかがえる。		
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 昔の状態・生活の様子を聞きながら、本人の大切にしてきたこと・価値感を聞き取り、情報を共有しながら、喜怒哀楽を共にし、現在の様子を説明して一緒に本人を支えていく関係を築いている。必ず良いことを一つは話し、家族に安心していただけるようにしている。		



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 本人や家族から、それぞれ希望や心配事を聞き、上手に伝えながら、より良い関係が築いていけるよう努力をしている。トラブルあれば、早期解決につなげている。コミュニケーションをとりながら、良い関係が築いていけるように支援している。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 玄関の扉を開放し、馴染みの人たちがいつでも面会に来れるような環境を整えている。本人が行きたい場所や、帰りたい家があれば、可能な限り実現させ、そこでの近所の人たちとの関係が途切れないようにしている。年に数回の美容室かよいという願いをかなえている利用者あり。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 常に職員はアンテナをはって仕事をする中、孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように配慮している。支え合ってできた時など、必ず褒めるようにしている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 入院した場合、必ず見舞いに行き、状態把握に努めている。又本人や、家族からの相談にも応じるようにしている。入院が長期となれば、定期的に見舞いに行き、顔をみせることもある。スムーズに退院後生活できるよう支援している。		
<p><b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b></p> <p><b>1. 一人ひとりの把握</b></p>					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 毎日の生活の中や、話合いの中で、利用者の思いや意向を把握し、確認し、職員全体がそれを把握できるよう努めている。困難な場合は、家族の希望も参考にしながら、その人らしい暮らしが続けられるように努力している。 (外部評価) 管理者や職員は、利用者とは過ごす時間が長く、仕草や会話等からその人の思いを汲み取ることができている。しかし、利用者と一緒に生活している間に知り得た情報は記録化されていないため、職員間で共有化されているかの客観的な確認が難しい。	※	管理者や職員は利用者の話を丁寧に聞きとっているため、多くの情報を持っている状態にある。貴重な情報は財産であり、サービスの質の向上に不可欠なものであるため、記録化していくことを望みたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) センター方式の用紙の記入により、これまでの生活歴や暮らし・生活環境等の把握に努めている。わからない点は、面会時に家族に可能な範囲で聞き取り、シートをうめていつている。半年に一度くらいで見直しをおこなっている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) センター方式のシートの活用 「できます・できないシート」のチェックにより、ADL・IADLの把握を半年に一度行っている。病歴も一覧表にまとめ、すぐに把握できるようにしている。職員いつでも見えるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 毎月一回、ケアカンファレンスを開き、その利用者の望み・課題・介護方法をスタッフで話し合い、確認し、介護計画を立てている。正看護師の参加も毎回あり、病気・ケアについて学ぶ機会にもなっている。  (外部評価) 介護計画の素案は利用者それぞれの担当職員全員が出し、全員で話し合っている。会議で出された内容を管理者や計画作成担当者がまとめ、介護計画を作成している。医療的な面ではホームの看護師が関わり、かかりつけ医とも相談のうえ介護計画に反映させている。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 3～4ヶ月に一度、ケアカンファ時に毎回スタッフで見直しを行い、その時の状態にあった介護計画を作成している。もちろん、入院やけが・急変時には、その都度見直しを行っている。その際、本人の希望や家族の希望等公表し、スタッフ全員が希望事項を把握するようにしている。  (外部評価) 介護計画は3～4か月毎に、また急変等があった場合はその都度見直しを行っている。計画内容の継続や見直しについては、日々のモニタリングを基に検討している。しかし、モニタリングの客観的なデータは記録として介護日誌に記載されているが、介護計画の資料として有用に活用されているとまでは言えない。	※	日々の介護記録は丁寧に記載されているため、貴重なデータとなっている。介護計画と関連付けることで、客観的な視点から利用者の現状を把握することが可能と考えられるので、担当職員による集計など、有効な活用を期待したい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個人別に、日々の記録を毎日時間を追って記入し、個人別カルテにまとめていき、いつでもスタッフが見えるようにしている。入浴他ケアの実施の有無が一目でわかるようにしている。ケアプランが実行できたら、○印をするようにし、介護計画の見直しに活かしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 現在 認知症対応型通所介護を一日3名まで、受け入れている。家族の要望があれば、時間を延長して数時間介護を行ったこともある。家族の希望をできる範囲でかなえるようにしている。  (外部評価) 通所介護や短期利用などの制度的な機能のほか、同法人が他ホームも運営していることから、人材や設備的にネットワーク化が図られており、催し物などの際には力が発揮されている。また、家族の協力を得ながら墓参りなどの細やかな支援も行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 地域運営推進会議時、民生委員他からの意見も参考に、地域とのつながりを大切にしている。年に2回の消防訓練では、消防署員立ち会いのもと、消火訓練を行っている。中学校生徒の職場体験受け入れ毎年実施。伊予農業高校による園芸セラピーも毎月のようにあり。ボランティア毎月あり。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) グループホームを気に入っていただいております。本人・家族より、他のサービス利用の話は今のところないが、要望が出た場合は、連絡を取り合いながら支援をしていきたいと思う。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 地域包括支援センター職員に来ていただき、仕事内容・これまでの実績等について、紹介をしていただいた。伊予市ケアマネジャー会でも話す機会を持つことができた。今後も協働しながら、必要時利用者を支援していきたいと思う		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 近藤医院・いよ整形・たきぐち歯科他、かかりつけ医がいる。本人及び家族の希望を大切にして、適切な医療が受けられるようにしている。近藤医院からは、日曜日以外、毎日往診あり。必要時は定期的に受診をしている。 (外部評価) かかりつけ医は本人や家族等の希望が基本となっているが、ホームの協力医療機関も利用者全員の状況を把握している。協力医療機関からはほぼ毎日の往診があり、利用者及び家族も安心している。管理者や職員も協力医療機関を信頼しており、医療面で安心な体制が構築されている。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 利用者の中にスタッフ付き添いにてこにし診療クリニックを定期的に受診している方がいる。わからない事は相談するようにしている。もちろん、提携している近藤医院院長にも必要時相談している。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 職員の中に正看護師1名・准看護師1名いるので、利用者の病状他いつでも相談できるようになっている。夜間の急変時等も、看護師の携帯に連絡を取り、処置の確認をとったりもしている。近藤医院の看護師にも相談し、協働に努めている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院時には、必ず職員も同行し、グループホーム内での状態や、ADL等 基本情報を伝え、利用者が安心して過ごせるようにしている。途中で必ず見舞いに行き、病院関係者との情報交換に努めている。早期退院できるよう配慮し、連携を大切にしている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 入居時に「看取りについて」の書類に選択項目があり、確認を行っている。病状が悪化した場合など、近藤医院と連絡を取り、家族に説明しながら、話し合いを持っている。結果は職員全体に伝え、情報を共有している。 (外部評価) ホームとして「看取り指針」を作成し、ターミナルケアに対して準備を進めている。職員同士や、家族等とも話し合いを始めているが、取り組みがスタートしたばかりで具体化や共有化が図られているとまでは言えない。	※	終末期に関して、ホームとしてできること、難しいことの区分を、職員と共に具体例を想定しながら話し合っていくことが求められる。また、終末期の考え方には家族とホームの間にズレがある場合もあるため、ホーム側から機会ある毎に話し合うことが望ましい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 利用者や家族の希望にそって、事業所でできる範囲の事を行う。かかりつけ医の指示のもと、職員全員が同じ方針で看護・介護を行う。家族に現状を伝え、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 入居前の本人・家族・ケアマネージャーとの面会・訪問等により、病歴・家庭環境他基本情報の把握に努め、必要ならば数回重ねた後、入居していただくようにしている。入居前に、全職員がケアに関し情報を共有するようにしている。入居後も利用者の状態を家族に伝え、不明な点は確認を行い、解決し安心していただけるようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	(自己評価) 利用者へは尊敬の気持ちを込めて接するように度々伝えている。接遇で気になる時には、その都度注意し、気をつけさせている。人生の先輩であること、感情を持った一人の人間であることを忘れず対応・記録を行っている。入浴時・着替え時・自室で過ごされる時のプライバシーを大切にしている。 <hr/> (外部評価) 認知症が進んでいる利用者にも、否定するのではなく、理解していることを示しながらゆっくりと安全な動作になるように声をかけるなど、誇りを尊重した関わりに努めている。また、記録の管理も専用の部屋で適切に行われている。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 何をどのようになりたいのか、具体的に聞くように心がけている。わかる範囲で、選択する事も大切にしている。希望の表出や自己決定中も表情に気をつけ、納得しているかどうか気を配っている。自分で決めたことに対し、褒めてその過程も大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 毎朝健康体操をしているが、強制参加ではなく一人ひとりのペースを大切にしている。行事や手作業時も利用者の気持ちを大切に、無理強いはしないようにしている。あくまでも、個人のペース・生活スタイルを優先するようにしている。  (外部評価) ホームとしての一日の生活スケジュールはあるが、あくまでも目安としており、利用者のペースを優先した支援を心がけている。利用者は、毎日行う健康体操を日課として楽しみにしており、健康維持を強制的に行うのではなく、生活にハリの出る楽しみごととして取り組んでいる。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 外出時には、その人らしい身だしなみや、おしゃれができるよう、洋服・アクセサリーを選んでいただき、スカーフをつけてみるなどして支援している。望む時はマニキュアをすることもあり。女性としての楽しみを大切にしている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の下準備（ごぼうのささがき・ジャガイモの皮取り他）手伝っていただいている。配膳時、食器への盛りつけもその方の力を活かしていただいている。毎食後、自分で食器をさげたり、テーブルを拭いたりできている利用者もいる。おやつづくりも一緒にしている。  (外部評価) 職員と一緒に準備や後片付けを行うことを楽しんでいる利用者や、それを指示する利用者など、自然で和やかな様子がうかがえた。口から食べることが元気になることと考えており、盛り付けや食態等にも工夫を行っている。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) タバコを毎日吸われる利用者も2名おられる。喫煙室でゆったりと吸えるように、配慮している。敬老会や、誕生日企画でカラオケ喫茶に行き、ビールを少し飲まれた利用者あり。家族のさし入れで冷蔵庫に小のビールが時々入った利用者あり。コーヒー・紅茶も選んでいただいている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 良いレベルをなるべく維持できるよう支援している。尿意訴えできない利用者でも、しぐさや表情をよく観察して、トイレ誘導をおこなっている。夜間オムツ使用の利用者でも、尿意訴えあれば、トイレ誘導を行い、気持ちよく排泄できるよう支援している。どうありがたいか、話を聞いている。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 2日に一回、入浴をゆっくりと楽しんでいただいている。時間帯は本人の希望を聞き、なるべくその時間に入れるようにしている。万一体調不良等で入浴できない場合でも、本人が望めば、洗髪・足浴・清拭等を行い、清潔に気持ちよく過ごせるようにしている。  (外部評価) 入浴の時間帯はなるべく利用者の希望にそうようにしているが、集団生活であることから難しい面もあり、その場合は足浴や清拭などで対応している。入浴支援は、利用者職員が対面で信頼関係を深める時間であるとの認識が深く、丁寧な支援に努めている。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者本位とし、食後や、活動後希望あれば、いつでもベッドでやすんでもいただけるようにしている。自分でベッド臥床できない利用者は、介助にて支援している。部屋の温度管理や照明・季節に応じた布団の調節にも気を配っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 洗濯物干し・たみ・仕分け・各部屋への届け関係、食事の下ごしらえ・配膳、食器洗い関係、部屋の掃除関係、庭の草引き関係・物づくり関係等、できる範囲の役割、楽しみごと、気晴らしの支援を行っている。感謝の気持ちをいつも伝え、意欲的にしていただいている。  (外部評価) 職員と利用者は多くの時間を一緒に生活しているため、それぞれのできることに、難しいこと、サポートすれば可能なこと等についての理解が深い。その中で役割や楽しみごとを生活に組み込む取り組みに努めている。役割づくりは居場所づくりという認識のもと、積極的な支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人の希望を大切に、少額を所持したり、使えるように支援している。2週間に一度、「買い物の日」をもうけ、近くのスーパーや商店街へ出かけ、レベルに合わせてお金を払っていただいている。管理できない利用者のお金は、預らせていただいている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 天気の良い日は、一日一回は中庭に出て、新鮮な外の空気を吸うようにしている。希望あれば、近くへ散歩したり、車椅子を押して季節の花を見ていただきながら、近所の方々とのふれあいの機会をつくっている。季節を肌で感じていただくようにしている。  (外部評価) 職員は、利用者と一緒に生活を楽んでいる感が強く、外出も生活を彩る行為の一つとして積極的に支援している。園芸療法の場合としてのホームの前庭も目を楽しませるものになっており、外気浴には格好の場となっている。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 毎年数回の墓参りをかかさずされている利用者いる。本人の意向を聞きスタッフが同行しお世話させていただいている。又年に一度の誕生日の企画として、行きたい場所へお連れし、満足していただいている。自宅へ帰り、ぶどうの収穫をされた方、実家へ何十年ぶりに帰った方もいる。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望時、電話をかけて話しができるようにしている。年末には、年賀状を希望者は書いていただき、家族とのやりとりを楽しんだ。普段手紙を書いた利用者は、希望あれば、ポストへの投函をしている。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) グループホームのドアはなるべく解放し、いつでも気軽に訪問できるようにしている。職員が笑顔で迎え、訪問客全員にお茶や、コーヒー等の飲み物・おやつの中には利用者と同じおやつを出して、いすや小テーブルも用意し、居心地良く過ごしていただいている。		



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束がなぜいけないのかについて学び、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。又万一、必要になった場合は、家族の同意者をもろうよう、用意している。身体拘束をしないで介護する為に、見守りや環境整備に気をつけている。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) すべての職員が、日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。ただ入居まだ半年もたない事もあり、帰宅願望の強い利用者があり、玄関の戸をあけて出られるため、必要時は玄関に長いすを置く場合もある。もちろん、居室や門のかける事はしない。  (外部評価) 玄関入口は、夜間の防犯目的以外には鍵はかけていない。職員の見守りを重視しており、利用者の安全に配慮している。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 帰宅願望の強い利用者いるため、利用者の所在の確認・環境整備・様子の把握を プライバシーに配慮しながら行っている。門の外まで歩いて出た方もおり、特に気をつけてる。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 異物を口にに入れる利用者もいるが、見守りを十分におこなうようにして、必要時片づけるようにし、危険を防ぐ取り組みをしている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 職員の研修参加(ケアマネ研修他)により、知識を学び、それを他の職員に伝え、一人ひとりの状態に応じてどのようなケアをしたらよいのか、スタッフ全員で話し合いをした後、実行している。タバコは絶対居室では禁煙とし、喫煙室でと決めてある。年に2回の避難訓練今年も実施。		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) ぜんそく発作を起こす可能性のある利用者おり、定期的に初期対応の確認を行っている。救急時の電話連絡網あり・進め方のマニュアル版あり。急変時も慌てず対応ができるようにしている。火災時の避難訓練・消火器訓練も昼間想定・夜間想定でそれぞれ行っている。		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 年に2回の避難訓練には、消防職員立ち会いで行った。利用者の火災予防に関するビデオを見て勉強を行い、火事の怖さ・避難時の注意点を確認した。又、地域運営推進会議で定期的に火災時・地震時・水害時の避難について協力要請を行っている。非難用救急袋の用意もできている。 <hr/> (外部評価) 定期的に、夜間想定も含めた避難訓練を行っており、また運営推進会議でも重要な議題として話し合いが行われている。地域から、災害の場合はホームを避難所として開放してほしいと依頼されており、地域と双方向で災害対策に取り組んでいる。		
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 年に2回の避難訓練には、消防職員立ち会いで行った。利用者の火災予防に関するビデオを見て勉強を行い、火事の怖さ・避難時の注意点を確認した。又、地域運営推進会議で定期的に火災時・地震時・水害時の避難について協力要請を行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎日午前・午後とバイタルを測定し、夜勤者に申し送ると共に、体調の変化や異変あれば、その日の全職員に伝え、情報を共有し対処している。日勤者・夜勤者それぞれ、連絡ノートや夜勤記録ノートにより、情報をつかむことができる。朝・夕の申し送り時間には、その時間帯の全職員集合。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 「お薬手帳」の確認、処方せんをカルテに毎回綴じて、職員のだれもがいつでも、利用者の薬の確認ができるようにしている。新しい薬の開始時・終了時は、連絡ノートに必ず書き、全職員が情報を共有できるようにしている。薬の服用時の注意点・オブラート使用者も全員が理解している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 便秘者には、バナナやヨーグルト・芋類をすすめたり、買ってきて食べていただいたりしている。お腹のマッサージや運動が大切である事も伝え、付き添って運動もしていただいている。頓服の便秘薬も用意しており、必要時は飲んでいただいている。もちろん、毎日排便の有無の確認済み。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後、一人ひとりにあった口腔ケアを行っている。介助が必要な利用者には、セッティング・声かけ・介助を行っている。定期的のコップや歯ブラシのチェックを行い、消毒もおこなっている。清潔保持に努めている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食べる量が少なかったり、栄養バランスの偏りのある利用者には必要時、エンシュアを飲んでいただいている。朝・午前の体操後・昼・おやつ・夕・夕食後とそれぞれ、水分補給をしている。夜間もコップ・ペットボトル・吸い飲み等にお茶を用意している。いつでも飲めるように、準備している。 (外部評価) 外部業者に食材を依頼し、適切なカロリーと栄養バランスの確保に努めている。栄養士であるホームの担当者が、見た目や季節感にも配慮するよう打ち合わせを定期的に行っている。利用者の状態によっては刻み食やミキサー食にしたり、量の調整などを行っている。摂取量については食事、水分共に日誌に記入している。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) インフルエンザの予防接種を家族了解のもと、受けていただいている。毎日ですりやトイレ・洗面所のレバー他ジア消毒を行っている。食器は毎回熱湯消毒。まな板・包丁も熱湯消毒やジア消毒を度々行っている。利用者外出から帰った時も手洗い・うがいを徹底している。対応の取り決めあり。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) ジア消毒や熱湯消毒により、衛生管理に努めている。生物は控え、キャベツや大根等も一度湯通ししてから使用している。冷蔵庫の温度に注意して、冷蔵庫保管をしている。冷蔵庫内の整理・整頓にも気をつけている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 日中 門は常時開放し、玄関も天気の良い日はできるだけ開放し、安心して出入りができるようにしている。門近くや中庭にはいつも四季おりおりの花を絶やさないようにし、親しみやすい雰囲気を大切にしている。建物周囲は常に植木の手入れや片付けを行い、清潔感が出るようにしている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 玄関には、つぼにいつも草花を絶やさないように心がけ、季節感を取り入れている。壁の大きいカレンダーや手作りの絵にも、季節感を取り入れ工夫している。テーブルや洗面所にも一輪さしで花をかざったり、採れた野菜を置くなどしている。トイレも居心地良くように配慮している。 (外部評価) ホームの造りは全体的にゆったりとしている。共用空間には大きなテーブルを並べているが、天井面に吹き抜けがあり、空間的にも圧迫感がない。また、小上がりのある畳のスペースもあり、心地よい空間になっている。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) テーブルの上には、常にお茶を用意しておき、飲みたい時にいつでも飲めるようにしている。居間も自由にアゲただけできるよう、座布団や小物を置いている。ソファや玄関ホールの椅子も椅子カバーをして あたためかい雰囲気をだしている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 馴染みのテレビや家具を置き、好みの置物を自由に飾っていただき、本人が居心地良く過ごせるように工夫している。家族の写真や位はいを置いている利用者もいる。しきびや水をかえたり介助している。模様替えも本人の希望を聞きながら行い、居心地よく過ごせるような工夫をしている。 (外部評価) 利用者により配置されている家具は異なるが、それぞれ使い慣れたものを持ち込んでいる。また、写真や絵なども飾られており、個性豊かな部屋となっている		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 各部屋換気扇あるが、窓も開けて空気の入換えをしている。訪室時他室温のチェックを行い、エアコンの調節を行っている。夜間もこまめに、温度調節をしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 建物はバリアフリー構造で、手すりもついており、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。ベッドの位置や柵の本数にも気を付けている。必要な方には歩行器や押し車・杖を使用していただき、置き場所にも気を付けている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 一人ひとり能力に応じて理解していただき、納得して生活していただいている。繰り返し説明の必要な利用者には、その都度ゆっくと、笑顔で説明するよう心掛けている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) いつでも庭の散歩ができるよう、玄関から出入りができやすいように配慮している。ベンチを置き、いつでも休憩ができ、庭の手入れがしたい利用者はいつでも職員見守りでしていただいている。庭内の畑にもいつでも行って野菜をさわるができる。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない (自己評価)	毎回のケアカンファレンス時、その利用者の思いや願いを確認している。新しい願いが出れば、申し送り時や連絡ノートを使って、全員が希望を把握するようにしている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない (自己評価)	レクリエーション係を毎日2名決めており、利用者と一緒に体操やゲーム・手作業をしながら、ゆっくと関わり、話を聞くようにしている。あせらさないことに気をつけている。又 話を傾聴し共感することを心がけている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない (自己評価)	その人らしさを大切にし、一人ひとりのペースで暮らしていただけるよう、配慮している。B棟にも満100歳の利用者もおり、日中ベッドでの臥床時間も多くなっているが、その方のペースを大切にしている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない (自己評価)	ゆっくと一人ひとりに関わる時間をとったり、全体で手作業をしたりして、楽しみのある時間を増やしている。職員とおしゃべりを楽しみにされている利用者もいる。本人の持っている能力を活かし、支援しているので、認めてもらっているという満足感が表情にでている。
92	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない (自己評価)	日曜日の買い物の日・ドライブの日に、本人が希望すれば市内の希望の箇所にスタッフ付き添いで出かけていただいている。誕生日には、本人の希望をかなえるようにしている。自宅へ帰った利用者おり。カラオケ喫茶へ行って、マイクを持ち歌った利用者おり。ドライブに出て季節を感じていただいている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない (自己評価)	毎日2回のバイタル測定・2日以内での往診・必要時のかかりつけ医への受診もできている。グループホーム内に頓服の解熱剤・便秘薬他その利用者に合わせて常備している。職員に正・准看護師もおり、心配な点あればいつでも相談できるし、受診にも付き添っている。バリアフリーの安心設計である。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない (自己評価)	体の不調・心配事あれば早期解決するように努めている。娘に連絡をとってほしい、自分お墓の事について相談にのってほしい、野菜づくりがしたい他、要望や願いを聞き柔軟な支援をおこなっている。安心して生活していただいている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	① ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない (自己評価)	毎日面会に来た家族には、近況を報告し、安心してもらっている。万一心配な点については、遠慮せず話していただき相談にのっている。以前よりも面会の回数も増え、利用者と一緒に過ごす時間がふえてきている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない (自己評価)	いよ・まつやまのグループホームとの交流あり。行事の際には声掛けし、参加していただいている。また、ボランティアの受け入れもしているため、舞踊・カラオケ・ギターや尺八のメンバーの方が訪ねて来てくれることあり。園芸セラピーの先生・生徒さん達とは顔馴染みとなり、会話も弾んでいる。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	散歩の途中で逢うと、声を掛けてくださるようになった。文化展見学にでかけた り、地域の店で買い物をするうちに、顔なじみとなり、少しずつ地域住民とのつなが りが増えている。グループホームへの訪問も少しずつ増えている。
98	職員は、活き活きと働いている	① ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員同士仲も良く、言いたい事を伝えながら、生き生きと働いている。長所を生か して働いてもらっている。絵が得意・工作が得意・歌が上手・園芸が得意・掃除が丁 寧・・・等 それぞれの得意分野で活躍してもらっており、またそれを伸ばせるよう にしている。職員の表情が明るい。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	言葉で表現できる利用者からは、度々感謝の気持ちやサービスに対して満足してい ることを伝えてもらっている。言葉で表現できない利用者も穏やかな落ち着いた表情 を感じることができる。又家族より、入居して良くなった点や、レベルが上がった ことを伝えていただいている。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての家族等が (自己 2 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	去年よりも面会の回数も増えてきている。毎月のホームだよりで写真入りで生活の 様子を知らせているが、写真他を見ながらも感謝の気持ちを、より伝えてくださるよ うになった。地域でも評判が良いということ、笑顔で話してくださっている。予約 者の増えてきている。

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

A棟とB棟 ワンフロアの為、A棟での評価と同じ事を、事業所として取り組んできた。(詳細は、A棟自己評価欄)

A・B棟とも今年はより地域とのつながりを深める為に、地域の行事に積極的に参加してきた。商店街の夜市・祭り・折り紙教室・文化展見学・敬老会・運動会他・地区防災講座他。外出の機会も去年より増えた。誕生日企画の外出・神社や寺参り・花見、一番の外出は砥部動物園へ、職員のボランティアの協力もあり利用者17名遠足に行ったことである。砥部動物園への外出は、生まれて初めてという利用者ばかりだった。初めて又は何十年ぶりかの動物園、利用者の顔は皆生き生きとしていた。みんなの協力もあり、事故・けがもなく楽しい一日を過ごす事ができ、よかったと思う。

B棟の利用者の中に胃ろう・人工肛門増設・右麻痺・会話ほとんど不可能の要介護5の利用者が半年前に入居されてきたが、現在は経口摂取量も増え、麻痺も少しずつ改善され、会話も成立するようになり、ADLも以前より上がった。利用者・家族が何を望んでいるかを感じ、職員全員がこの利用者とは真剣に関わり合いながら、現在のレベルにまでなった事・家族に喜んでいただけた事をうれしく思う。今後も一人ひとりの利用者をもっと知り、状態把握に努め、家族と連携を取りながら、利用者全員にもっと満足していただけるよう、職員全員で努力していこうと思う。

外部評価を機会に、このグループホームをいろいろな角度から見直し、評価し反省できた。この機会に恵まれたことに、今年も感謝している。常に今後もグループホームの質の向上の為、利用者の満足度向上の為、努力していこうと思っている。

「志ある者は必ず成す」常に管理者である私が職員の手本となり、よりあたたかいグループホームを目指して努力していきたいと思っている。今後ご指導の程 よろしくお願い致します。